

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実特別版”

『月刊現代 - 私はなぜ「タブー」に挑んだのか - 』

第7回

『週刊現代』に続き『月刊現代』もJR東日本の革マル浸透問題を告発した。本紙は筆者の了解を得て、驚くべきこの事実をシリーズで紹介することとした。

松崎「列車を動かすのは大変だが、止めるほど簡単なものはない。俺がこれから電話をすれば、山手線を一発で止めることができる」

「91年のあの松田さんの『癒着発言』以降、大塚氏も清野氏も、労政改革にすっかり及び腰になったのです。清野さんに至っては『異常な労使関係の軟着陸を目指すことは大切だが、正直、その時期がいつになるのか分からない。あるいはそういう時期は来ないかもしれない』とトーンダウン。果ては、再び若手幹部から『本当にこの労使関係を変えるつもりはあるのですか』と詰め寄られた清野さんは苦渋の表情を浮かべ、こう答えたのです。

『今のJR東日本には、旧国鉄時代の本社採用（いわゆる『キャリア組』）のような使命感はないんだ。もう「松崎体制」を前提にして全てを考えるしか、我々が生き残れる道はないんだよ』これを聞いた我々は皆、目の前が真っ暗になりました」（同前）

それにしても住田正二氏（現JR東日本相談役、84歳）、松田氏の旧経営陣、そして大塚、清野氏の現経営陣はなぜ、これほどまでに松崎という男を恐れ、組合側に擦り寄っていったのか。「松崎はことあるごとに、『列車を動かすのは大変だが、止めるほど簡単なものはない。俺がこれから電話をすれば、山手線を一発で止めることができる』とJR東日本経営陣を恫喝してきました。しかし彼の最大の武器は、革マル派非公然部隊を使った情報収集能力にあるのです」（JR東労組元幹部）

盗聴、盗撮、住居侵入と目的のためには非合法手段をも厭わない革マル派の非公然部隊『インフォ（INF）』は、今も「組織防衛のため」に“情報収集活動”を続けている。その非公然アジトのひとつが、東京都練馬区の「豊玉アジト」だ。98年1月、警視庁公安部が同アジトを摘発し、押収物を分析した結果、JR東労組の対立労組の幹部ら、JR関係社宅に、革マル派非公然部隊が侵入、盗聴していたことが判明したのだ。